

# 丸山句碑の森

(まるやまくひのもり)



【所在】

鷹栖町 21 線 13 号

【歌碑建立】

昭和 57 年より

## 大自然にたたずむ句碑たち

丸山句碑の森は昭和 57 年、緑と文学の調和した憩いの場として造成が始められた。そのきっかけとなったのは、みかえりの柏の下に「見返り地蔵」を建立した際、『開拓の流離語らぬ草地蔵』南蝶の句碑を建立したことに始まる。この句碑が好評であったため、全山に町内外の俳人の句を招待し、句碑の森にしようということになった。

その秋には「樹氷」主宰塩野谷秋風師の賛同を得て、秋には 5 基の碑が建立された。翌 58 年、集会施設「玄穹庵」を町の補助金をもって建築され、夏秋に 2 度も句碑の序幕式を行うほどであった。同 60 年に 100 句碑建立を達成し、かねて計画のあった「丸山百句碑」を出版、350 ページの写真句集を世に問うた。同 61 年春に、旭川 NHK 放送局ロビーにおいて「丸山 100 句碑写真展」を開催、丸山の姿を広く理解していただく機会となった。

句碑の森は、著名俳人の碑も少なからずあり、俳誌「若葉」の西本一都、「樹氷」の塩野谷秋風、「雪華」の深谷雄大、「氷原帯」の川端麟太、「樹氷」の北見弟花、「えぞにう」の木下春影、「古譚」の石田雨圃子のほか、種田山頭火など、数多くの同人俳人 150 基以上の句碑が建碑されるまでに至っている。